

腸内細菌叢研究グループ

- 腸内細菌叢研究グループでは、腸内細菌叢の癌・炎症・免疫における役割を研究しています
- これまでに、腸内細菌の新たな役割として、Enterococcus faecalisによる肝発癌促進、Enterococcus faeciumによる炎症性腸疾患増悪、Klebsiella pneumoniaeと膵癌の予後不良の関連を報告しています。また便細菌叢移植による新しい潰瘍性大腸炎の治療開発にも取り組んでいます。
- 今後はがん免疫療法を活性化させる腸内細菌叢の役割や、人工知能を用いた腸内細菌叢からの疾患診断方法の可能性を探っています。
- 2021年にはNature Cancer誌、2022年にJournal of Gastroenterology誌に掲載されて注目されています。

腸内細菌叢研究グループ

人類に共生する100兆個を超える細菌が人体にどのような影響を与えるかを研究します。病原細菌を学ぶ感染症学の領域を超えて、細菌の新しい役割を探索する研究分野になります。

